

メキシコ 2019 年の相場展望

2018 年 12 月 21 日

<新大統領の政策に左右されるも米国利上げ打ち止め観測が追い風に>

メキシコは、2013 年以降、公共投資や石油生産量の減少などに苦しみながらも、緩やかな成長を続けてきましたが、当社では 2019 年の GDP(国内総生産)成長率は+2.2%と安定的な成長が継続すると予想しています。

メキシコでは 2017 年から 2018 年にかけて、燃料補助金の廃止、食料品価格や原油価格の高騰、通貨の下落などを背景としたインフレによって実質賃金の上昇が抑制されたことが個人消費に悪影響を与えてきました。また、2018 年は大統領選挙が行われ、新しく選出されたオブラドール大統領は汚職の撲滅などの名目で新空港の建設中止や石油鉱区の入札の中止など、長期的にはメキシコ経済に悪影響を与える可能性のある大衆迎合的な政策を実施し始めています。こうした新大統領の政策への懸念から、海外投資家によるメキシコへの新規投資が抑制される可能性があり、長期的にはメキシコ経済に弊害をもたらす可能性があります。しかしその一方で、新大統領が進める社会福祉の充実などの政策は短期的には政府支出を増加させ、経済へ好影響を与えると考えています。

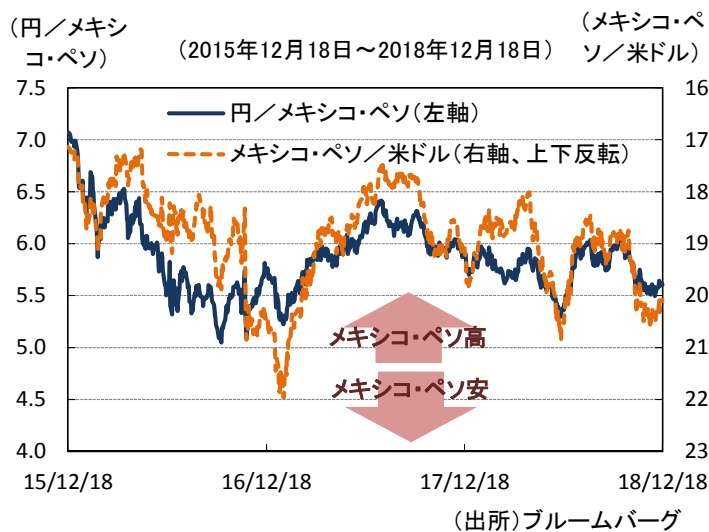
産業面については、2018 年 11 月に USMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)が合意したことで、貿易面での先行き不透明感が後退し、製造業輸出関連への投資が加速するとみています。メキシコの製造業については 2018 年は好調に推移しており、米国経済の堅調さが続く限り、今後もそれが続くと考えています。また、米国の利上げ打ち止め観測が浮上していることや、米国と中国との貿易戦争が続いていることが、メキシコの製造業輸出を引き続きサポートするとみています。雇用については、失業率が金融危機以来で最低水準にとどまっている一方で、賃金はそこまで上昇しておらず、メキシコの製造業は競争力を維持しています。そのため、製造業への投資が加速し、引き続き好調な輸出が見込まれます。

メキシコ・ペソについては、2018 年初来では新興国通貨全体が下落する中、メキシコ・ペソは相対的に下落率が小さく抑えられた通貨となりました。2018 年 7 月以降は、オブラドール大統領の政策発表に左右される展開となり、市場の変動性が高まりました。

2019 年のメキシコの債券・為替市場については、引き続きオブラドール大統領の政策に左右されるものの、米国の利上げ打ち止め観測が、メキシコを含む新興国市場の追い風となりそうです。2015 年以降、米国では断続的に利上げが実施されてきましたが、足元の FRB(米国連邦準備制度理事会)高官の発言からは中立金利を上回るまでの積極的な利上げ姿勢は見られません。2019 年に入り、米国の利上げ打ち止めが視野に入ってくると、これまで軟調に推移してきた新興国市場への資金流入が期待され、メキシコ・ペソにも上昇余地が生じる見込みです。加えて、メキシコは長短金利ともに 8%台の水準にあることから、債券投資の観点でも魅力的な投資対象であると考えております。

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

《為替の推移》



《国債金利の推移》



以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management